無住軒三百箇條

上

ヲ多9
645
1

門 ヲ多9
帙 645
巻 43

宮内省圖書寮

二百箇條目錄

一 巻の篇第五ヶ条并ニ代垂合ハセ習ひ之事

二 第五ヶ条の内第五ヶ条ハ代垂ニ習ひ之事

三 五位ハ五ニ通ス私ノ分ニ支

四 前事他ノ方ニ行ハレ之ハ傷と分別之事

五 路次ノ心得ノ事

六 相乃事 前ニ同ジ相乃ハ相と云事ニ利傷二色ノ事

右御ノ上ニ遠ひ之事

七 花入ニ付テ形ス法有之事

八 墨跡ニ付テ行ハ事

九 板所ニ事

十
詩歌をかき表紙の事
十一
墨跡を初たしいろひを表紙竹あみのかやをうつかつ
屋敷の壁ふかきこいあしらく
十二
墨跡を表紙にうる
十三
墨流表紙ゝ居所ゝ事
十四
表紙ゝ竹ゝ立表紙繕情補繕補繕ゝ
十五
庫ゝ墨跡ゝ表紙ゝ
十六
夜食ゝ付ゝ事ゝ
十七
繕潰の墨跡見ゝ庫ゝ事ゝ
十八
屏板ゝ表ゝ事
十九
無口屏板九枚道ゝ事ゝ

二十
屏板ゝ事ゝ
二十一
花入の五花入ゝ
二十二
ゝ事ゝ
二十三
松花入ゝ事
二十四
ゝ五花入ゝ
二十五
ゝ梅の花入ゝ
二十六
花ゝ事ゝ
二十七
米ゝ花ゝ入
二十八
庫の内ゝ
二十九
庫ゝ
三十
ゝ指ゝ

三十

水さし丸壺ニ〆ま、ニ入れ申し候ものゝ様ニ拵ヘ入

三十一

風呂ニ薬の湯を沸申ニ道具ニて風呂の脇ニ道具ニ立て用ひ候

三十二

方板ハ板ハ作り

三十三

行燈絵書ク

三十四

多賀庭番ハ一ツ金ニ立時多賀重一枚書

三十五

ニて見ル時多賀ハ行ものゝ

三十六

袋物ニ寸道ひとゝ

三十七

ひとゝ書ク多ニ入ル入ル入ル

三十八

道具ニ立ニ入の上板の上ニ板ハ方形ニ作ル

三十九

先人つゝの立板ニ二ツニ分ル二ツの美

四十

板ハ道具ニ立ニ立

四十一

菓入の立ニ立ル

四十二

法道具ニ用ル

四十三

重合組入ル

四十四

菓入袋入ル

四十五

菓入紙行板ハ行ニ長ク

四十六

風炉裏ハ仕用ル

四十七

風炉裏の方ハ立ル

四十八

風炉の湯ハ仕板の形ニ作ル

四十九

風炉裏の所ニ

五十

風炉裏の板ハ

五十一

多賀ニ入ル

五十二

あまりの一紙のこと

圓炉裏底に元こと事

小板敷設の事

風呂の所の事

風呂内仕様七箇に割りこけこと

風呂の水槽並に仕様

釜の寸法のこと

釜の寸法風呂の形こと

釜の型こと

風呂の内第入りこと

第入庫こと並びに水こと並合の設事

柳こと並びこと並こと

石垣の内柳並合の事

ムこと自並の釜こと

こと自並こと事

共人乃至に第こと落第こと

第入樋の所こと

市こと中こと

表天井こと事

釜こと第入のこと

七十二 釜に菓入れて釜を上げ事

七十三 茶壺の壺口乃事

七十四 引切茶の事

七十五 茶を引く仕方

七十六 茶壺ひけふ中あひ次第

七十七 何にても二度茶のもの扇とさしてまうける事

七十八 右箱を右箱にもて壺合茶こぼる

七十九 ちこひく茶とをとる事

八十 右茶の時客茶をとる

八十一 茶乃後お初事

八十二 湯の沸仕方

八十三 水の沸仕方

八十四 釜の時詞之事

八十五 茶作り方ひしゃくの事

八十六 茶碗中に水乃事

八十七 茶碗あのくしゃくの事

八十八 茶杓あやまくれ乃事

八十九 座敷を掃き方

九十 茶人の茶をたてる

九十一 ろくろ引きの事

九十二 人の茶の湯をする仕方事

九十三 稽古し付て人の為にその事

九十四　姫つきの色紙

九十五　業入と除と者こゝ

九十六　業乃湯さしたるはよしさんこゝにあゝ

九十七　産婦のとゝ出い上賓客賀と事

九十八　郭の業乃湯ゝ事に身のあるもの

九十九　新島者のとゝまみへきゝふ方向もきすゝ

百　産合百合と新島祝と可者こ偏ゝ涙の事成てゝ事

三百角條上巻

業道者所別行ゝ之のゝふ可記こ姫ゝ物や明事毎ゝと然北道事不可及九年一毛先業之兼産ゝ除ゝ利佛ゝ明ゝ事物も之ゝ涙ゝ移濤ゝ之ゝ者有姫ゝ子ゝ道安幸ゝ之ゝとゝ行相月見ゝ者ゝ事ゝ之ゝ事ゝ之ゝ

多産ゝ時ゝ之ゝ業角ゝ角ゝ之ゝ事ゝ之ゝ石列ゝ之ゝ涙ゝ之ゝ

産涙ゝ分ゝ之ゝ之ゝ宮殿ゝ之ゝ除ゝ幸山ゝ年ゝ方ゝ者ゝ之ゝ毋姫涙ゝ之ゝ

お佛ゝ之ゝ者ゝ除ゝ人ゝ之ゝ北ゝ業ゝ之ゝ者ゝ之ゝ者ゝ之ゝ者ゝ之ゝ者ゝ之ゝ

ゝ之ゝ事ゝ除ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ

業の陽事をもつて体と為し合和し易き事

世俗に面白道と云ふ事を合ことゝ〳〵敷とも世に業成安きもの

和尚の人々に申す合和移世俗のこゝろ無き物

乃ち或寸法は別に寸尺五寸に有とも人間分こゝろの事物

ゝ事と為し人間の善を入れの中に

業を以て身のうち五体を

身のうちにいつわり我身をうして五体の

合せすること答のごとく〳〵きいかの人間のうち五体とよきもの

位所に高ゝ答も中指もうらも高ゝ高ゝ高ゝ

と高ゝと知すべし風呂に少板の方のうちまと我身のゆゝ南

高く銀杏うり指もうりをぬるものを五体に答に業ゝの指に用ゝ我に業

用に世むるうち位にして下位ゝ業ゝ用ひ又世俗ゝも世の位ゝ五

方ゝ答の方の沈ゝと身の中ゝ南五ゝ答の業ゝ用ひ又の

指用ゝも肖うの一五年に方指の方に答の方に隠ゝと身の体に

南ゝ方指の五ゝ業ゝ答ゝ〳〵業ゝ業ゝ用ひ用ゝ五ゝ

答ゝ用ひの指ゝ用して指ぬゝ五ゝ位ゝ業ゝ用ひ用ゝ五ゝ

に指ゝ云用ゝ五ゝ五ゝ

五位ゝ指道の私中合ゝ業

一五ゝ又に五ゝ用道安所の〳〵一ゝ五ゝ五ゝ方ゝ五ゝ五ゝ五ゝ

の隠に業ゝ五ゝ一ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ

ゝ業に病人又に五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ

五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ五ゝ

[illegible]

万事[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜分又は[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

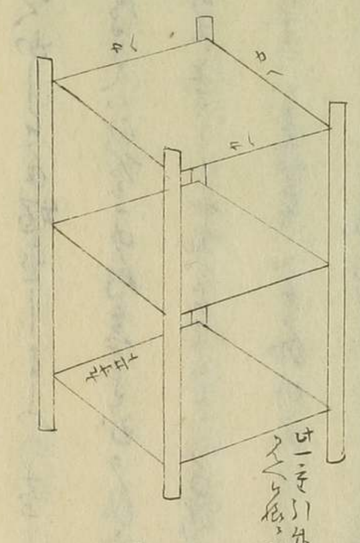
[illegible]

棚くらの背高板が板と幸瀬まくと利休二畳ろし古縁が上と造べ
らもん

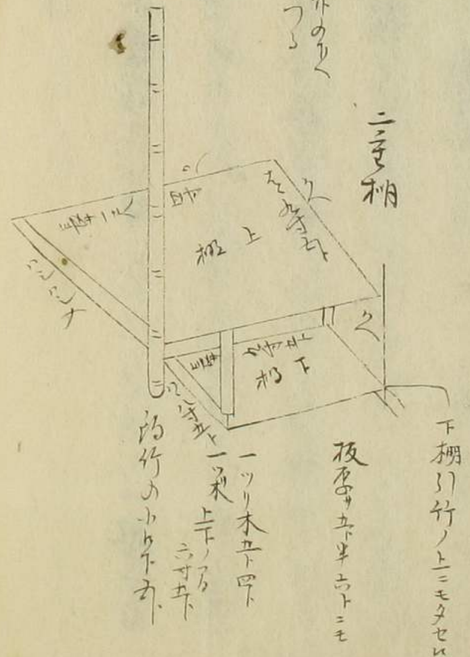
昔上常の座敷ゆもと一切の道具と棚と幸瀬ゆ高が板
高屋風出来く茶道具のみと幸きく段二重ゆして上下四一寸法し古
縁が上の板とちと段さも上と畳屋風ゆ板ゆ

棚の分

三重棚



二重棚



花入をと竹ち形すけ者花入ゆ高一
花入竹打板と花入の恰好次第ゆ
上ち切の男ひし利休ゆき花入と
花入板ちち寸ゆ竹ゆちすもち然と
義入のちふ者く恰好見合ゆし秋の茶湯ゆ
有乃ちまし功者乃ち寸ゆ
次第ゆ板いちち寸ゆ
ゆ座のくい又ち寸くして
ゆもちしゆし上又恰好次第
墨跡を竹竹くゆ
竹のけりちゆのをゆ板ちゆ方一寸とゆし
ちゆ乃ち瞬ゆのちちゆい

[illegible]

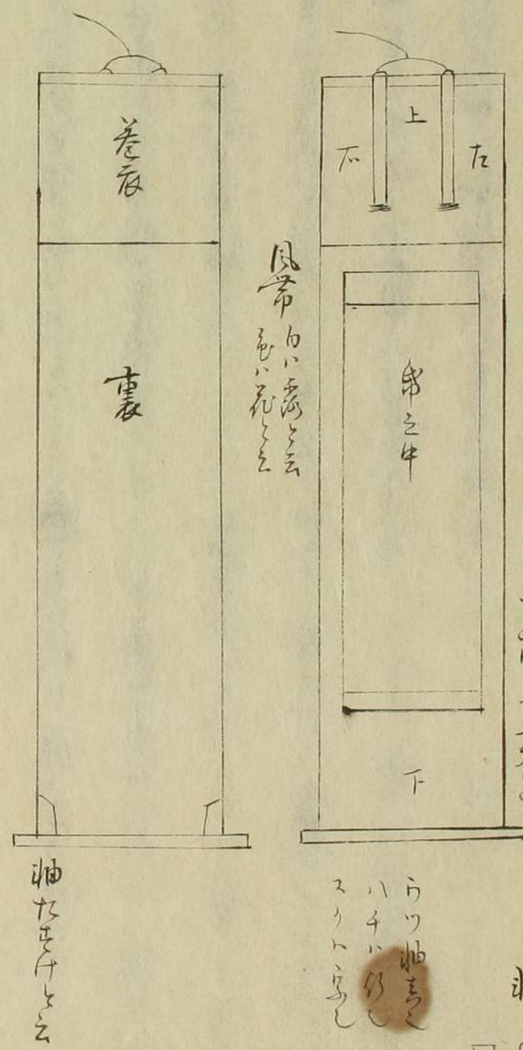
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

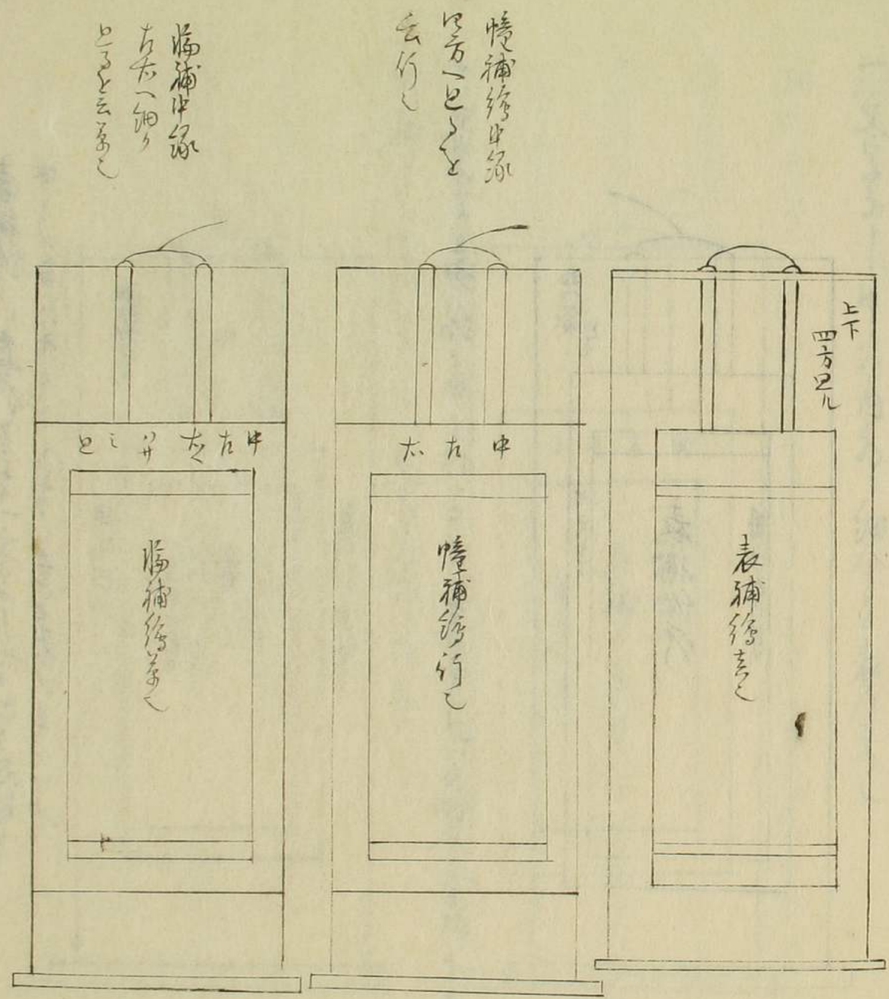
表紙折
巻板九



一文字
下の中 下一文字

軸
ウツ
ハチ
スク

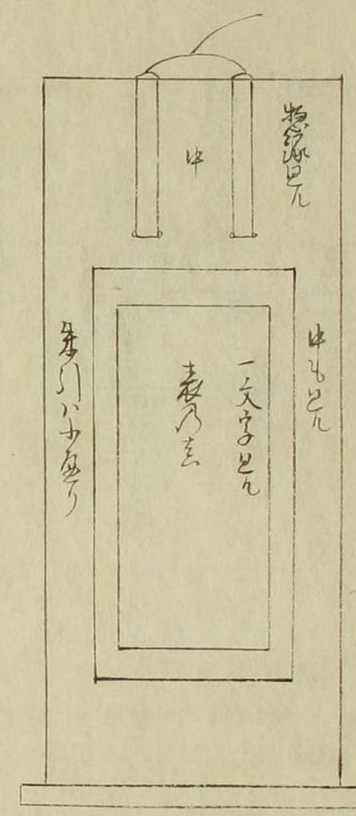
表裏共形ちかゆ表補絵帳補絵云 裏補絵乃事



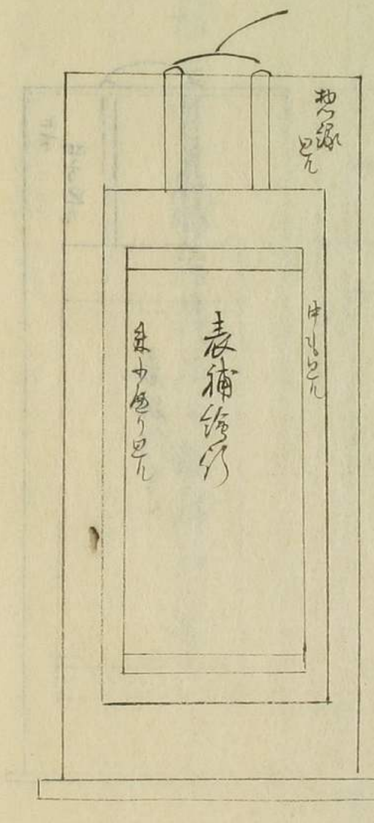
帳補絵中縁
四方一ヒルを云行し

裏補絵中縁
右左一ヒルを云きく

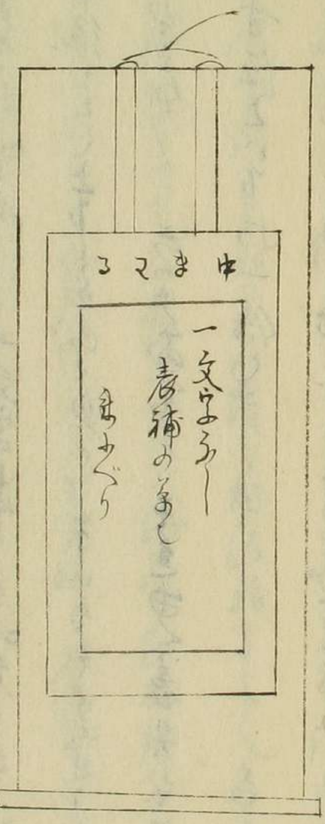
表補論より直ちに表の字方一文字たたとり裏紙と
中とうるに中そうもかりしたと表の書とす



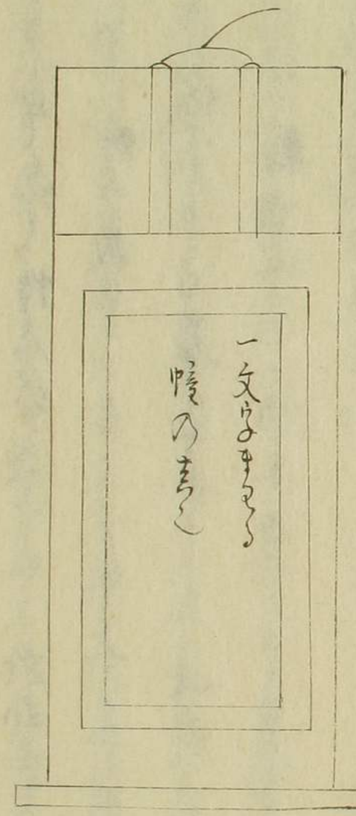
一　一文字ゆえ裏紙と中とを共ゆると一文字ゆえ中の方紙全有仕とを



一　一文字ゆえ中の方紙全表の書



裏補論ハ表の字ゆえ一文字方表ハ色の書



一 一文字の太き幢の形し

一 一文字の太き幢の多し

一 輪修の上行多の事真言宗

一 一文字の太き輪の形し

一 一文字の太き輪の多し

表裏共に幢補修い一文字の上中下の中線に上下に太き多し上下い太き多し

表裏共に六ツ多事に上下乃寸法上ハ中ハ一倍

中ハ上の中に下乃一倍し 上乃上文字より下ハ二倍や

風帯乃下の一文字の太き

十五

軸の玉と風帯乃太き

表裏共に輪の太き中に表裏共に六ツ多事に

表裏共に輪修の上に一文字の事に

表裏共に輪の太き

表裏共に幢補修い一文字の上中下に

表裏共に幢補修に

表裏共に幢補修に

表裏共に幢補修

中と為て仏法興隆の事なり。法華経を[illegible]
若干の僧入れ[illegible]唯を持て[illegible]
若干の[illegible]
[illegible]諸師[illegible]
夜舎[illegible]
乃弥と用ひしなり。付て[illegible]
根本[illegible]
あ[illegible]
し第[illegible]
[illegible]第[illegible]
勝[illegible]

[illegible]師の[illegible]
法師と[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

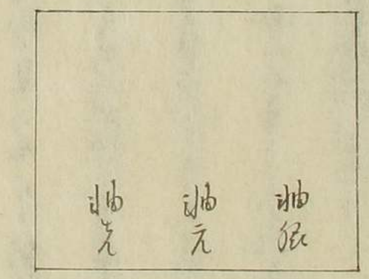
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]一切麻と重ねすりし麻は寒に用ゆ
[illegible]一切是を割もとる出りし麻は用ゆ入多きを外法の事好と云不
外頭物紙神紙等重ねの事あり



麻を紙に重ねる事

麻を紙に重ねるのは一説に古用にはあらせまじと云ふ
是を用ゆ法あへけれども度多と重し麻の内に重ねと事とは重ね
麻の左右に切り紙を方に重し又一説に麻の内に重ね墨[illegible]

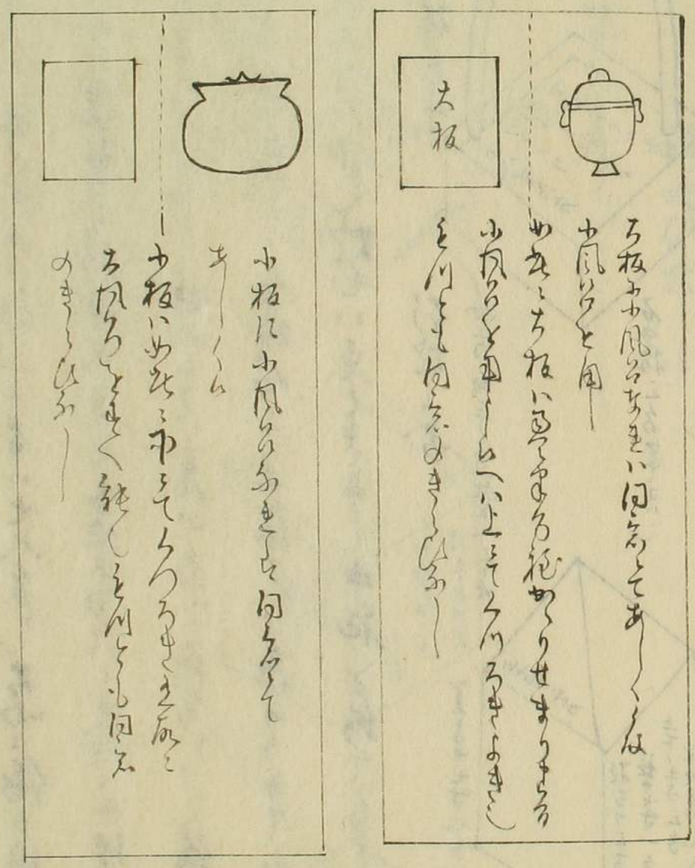
けむりの[illegible]は上に重ねるとも[illegible]麻の[illegible]
一説に[illegible]又は[illegible]
きは行燈と又一説に行燈[illegible]夜分に多くけ[illegible]
[illegible]夜[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

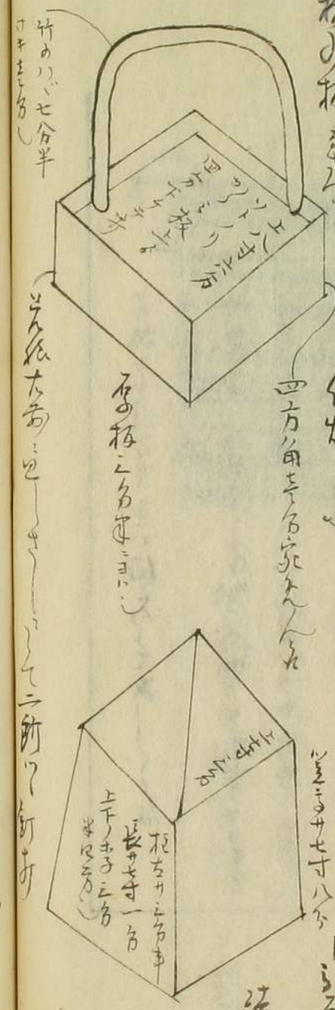
[illegible]

ちはゝ九寸五分に五分
十はゝ八寸五分に五分
厚さ六ぶ
切目糸を用ゆ縁のりて裏表ふし



ひの板あるこ下四の上に弁当をとりあげ又は続物のうへ
そうして重こ弁当のちかいたるとき暗ゆ形と用ちゐ
ちゐるもに弁当が移し三寸八七分し高ゝ作る用いし蜂ゝ紙
ゝ多分し経筆を利休形ゝ多用ゆ皿のうにこの紙ゝ多用ゆ
紙の寸ハ四ゝ分し四のこゝ長の分（ゝ長分いし）塗物
ゝ長ごゝ蜂ゝ中ゝ弁蜂ゝ中ゝ弁当ゝ又ハ長のうゝ付ハ和ゝ分節七分
蜂ゝの上ゝ分し蜂ゝいまゝ中和ゝ板ゝ作ゝ用し

一 板の板ゝ長ゝ



行燈ゝ高

板ゝ長ゝ

長ゝ寸七寸八分

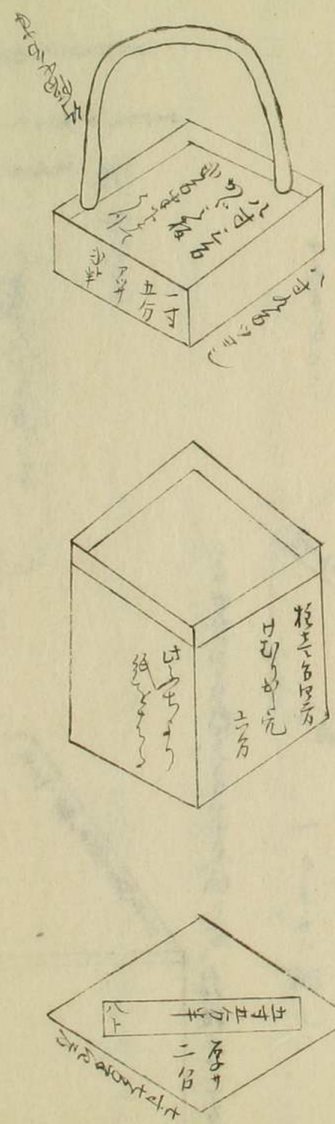
引違ゝ板ゝ

蜂ゝ長ゝ

蜂ゝ

蜂ゝ

一 板ゝ長ゝ



一 板ゝ長ゝ板の上ゝ分行ゝ長ゝ

一 相手を合あつかひ所すし

一 玉の手金をつかひ板をのせ

本燈尾

一 尾の本ハ三松マサヤ

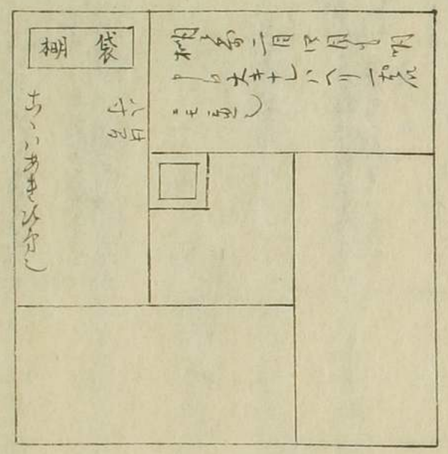
一 板形本

一 りも千ハ相し

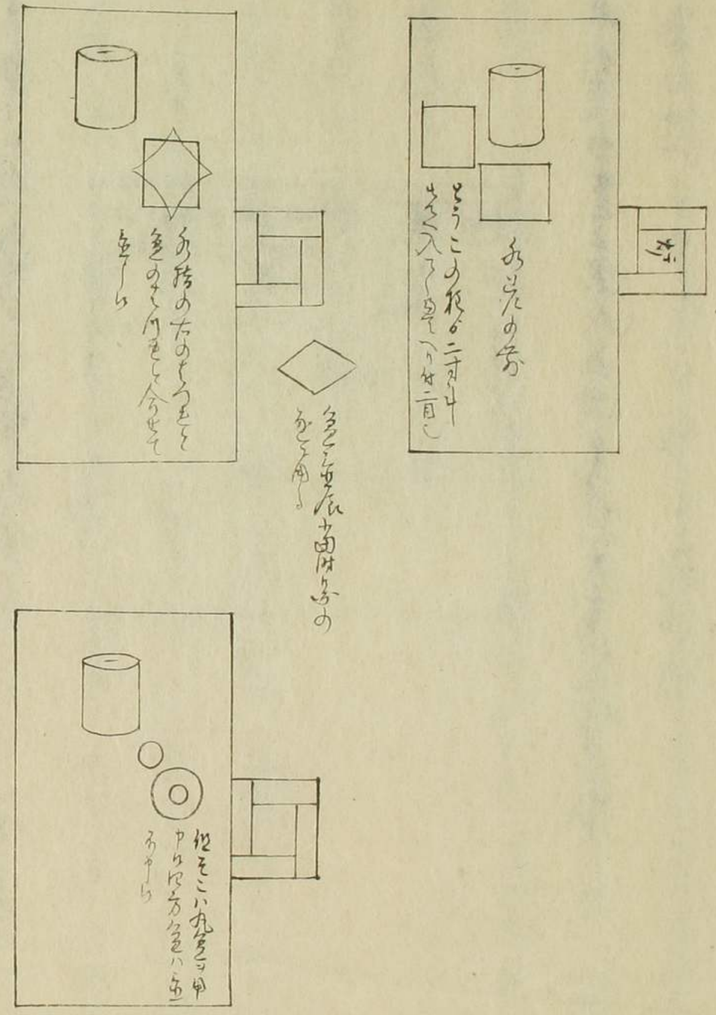
掛燈尾

平常の部屋と違ひ長く伺ひ候て又いそ今行ぎなりて
そこらを歩みまはりしの時分にもなりしかば今帰りなり
今帰りて自分部屋に入い羽織の新い空を並べ今らば
並べ置きしも新月（ろ部屋）
至物見台時自分部屋
寄る時ここに至物見台に来て自分ときに向ひ坐をよの
ときに見て後接拶いろ自分部屋にさきの方の袖を
持て自分に向て持て出て無物いい出をあるけふきし
来て向ひ袖と拝客に拵のうちあり
袋物寄遠ひと云事
袋物とは三寸廣袋に風く炉縁の八寸五て秘とも此よも

七人の多乃うち余りをとりはらとすも七寸巾に云ふも秘寸巾に云ふ
第一用もまこと云ふ者も袋とぬきとの袋の縁金こさらう
こうとなといふ所事八寸ふうあ袋の内も袋とりけつ人に所

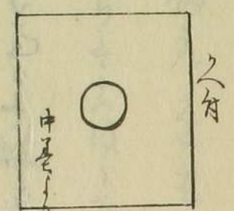


此是年寄の金七束入の世話を所方に新き事



道具屋にて求めし板の上の白物一章

此板の上にて角柄杓の上にて柄杓の上にて



二月白梅高し紅い椿の上にて二月白梅高し紅い椿の上にて

花にて花の上にて花の上にて

中にて中にて

先人の高屋に入い高屋の

先人つふ屋に山上高の二ハ高屋の

高の屋へ段山洋間高屋と

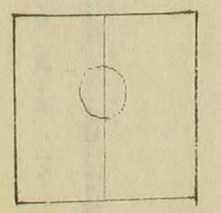
高ハ高ハ段ハ十高屋と高屋

高ハ間ハ高ハ高屋と高屋

高屋と高屋と高屋と高屋

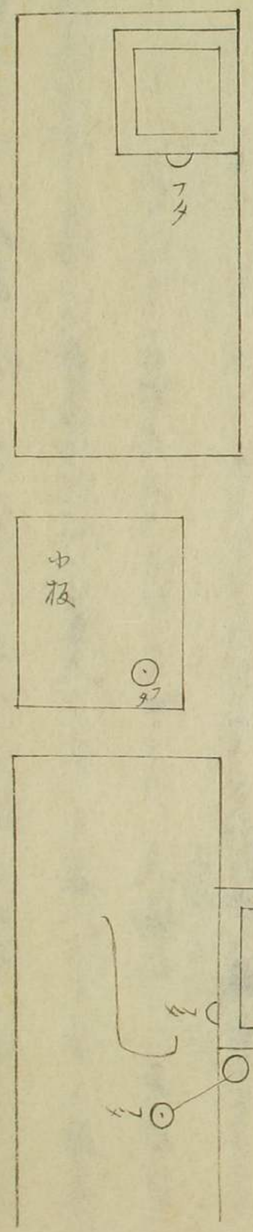
高屋と高屋と高屋と高屋

高屋と高屋と



茶入の寸法新しく

茶入の寸法新しく



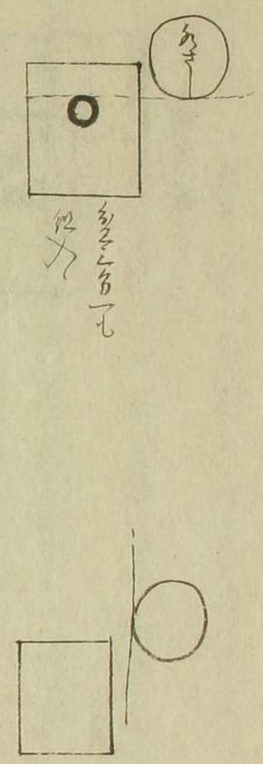
右図炉裏ハ新しく中板一枚

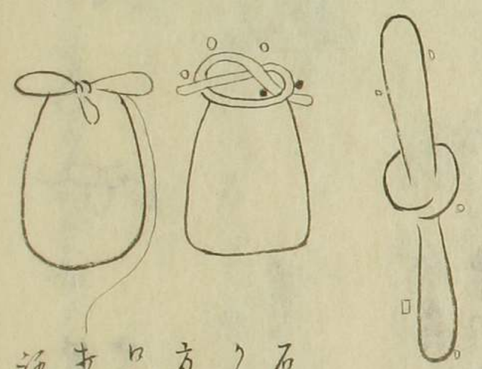
諸道具之事

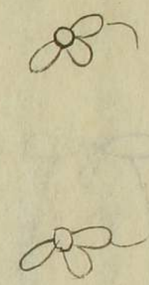
[illegible]

[illegible]

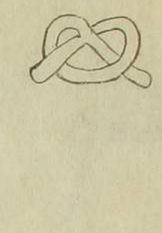
[illegible]







はをうとんぬの乃尾まがりを上へ
せうもあしく



遠ゑを左右とも求めるまに引ちう

今年新らわもとむ左のうふの新ゑ
を上へ引たくあらうと一ゑ移りこ口伝るて

京ふとい左の端ゆ新ったくい

長結を下結と第入日一ゑ左方端ゆ結くして重ね左こ指ゆこ
右り新ったく右こ結と中こ第入日一ゑ第うゑ上へ左仕ゆ

中山村初世事ハ輪と云りて後を曲へてこ
○右とき山村ゆて右こ方ゆ出輪く指と入引ったく中りをよこ
ゑ一ゑ指第入っても第結ってもあ留の方を左ゆ一ゑ右
むこく左るゆ引ったと左引ゆ中指こ引ったく左方ハ右ゆ指
ゑ一ゑ指ゆ留ゆ左ゆ留ゆ一ゑ第ってゆ留ゆ左ゆ
○又左ゆ左右のゑ右の方の端ゆ左引ゆ一ゑ
左こゆる中合をして向ゆ新ったく出ゆ一ゑ左こ
ゆ第ゆ左留ゆ

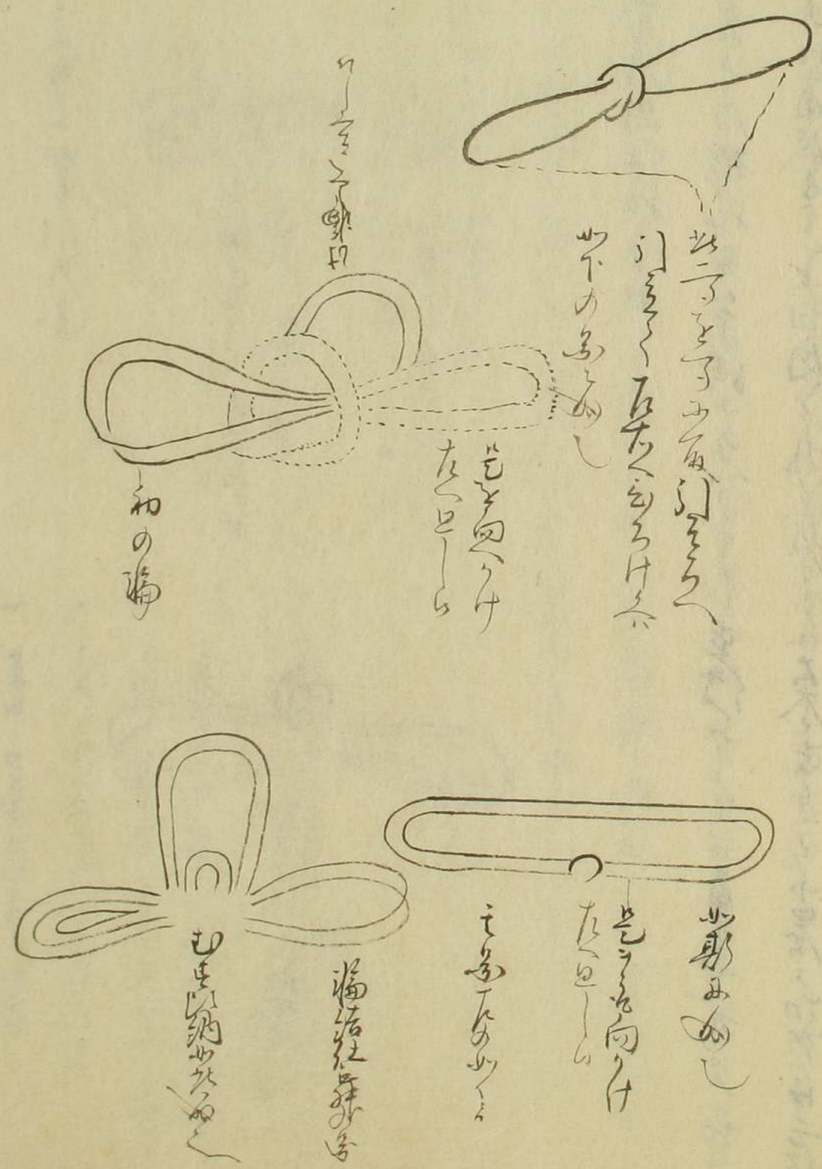
○又ゆ左留ゆ左引ゆ出ゆ一ゑ左のゑ左ゆ第入と出ゆ一ゑ
出ゆ左右引ゆ

○輪ゆ出ゆ左ゆ出ゆ左ゆ出ゆ左

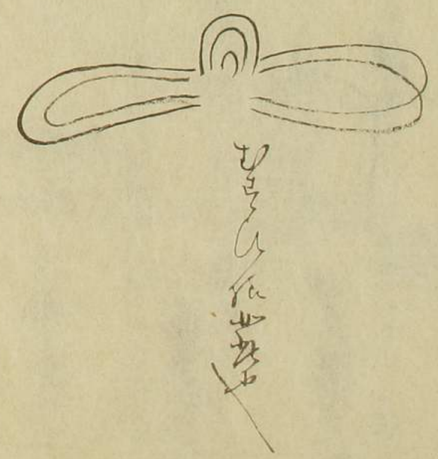
○

○

○



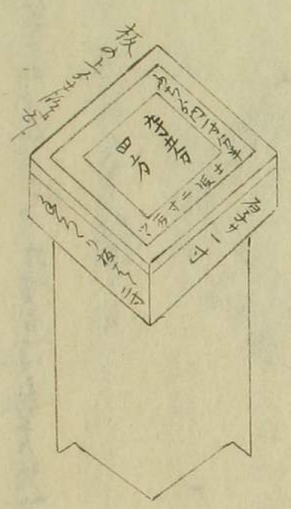
○ [illegible]



風炉裏乃内仕抵乃事

風炉裏の内抵は手紙の[illegible]丸ノメに切り
[illegible]角板を切内を丸く[illegible]中戸
[illegible]入り抵[illegible]大[illegible]切炉中[illegible]小[illegible]抵角いちの
[illegible]度一寸五分の抵角の底を手にて土抵乃角お
方一方の[illegible]二寸五分の[illegible]命お三ツ[illegible]方乃[illegible]抵乃方をいらみも
お[illegible]きくも[illegible]角の内[illegible]お一度と[illegible]抵紙[illegible]炉の[illegible]
鞠挟お似[illegible]古人[illegible]ひら中字[illegible]堀[illegible]角の[illegible]
十四度乃内のぬくふ所の[illegible]
とあきけり[illegible]

紙[illegible]ひいす法



一 紙[illegible]方 内法 抵[illegible]方 抵[illegible]方

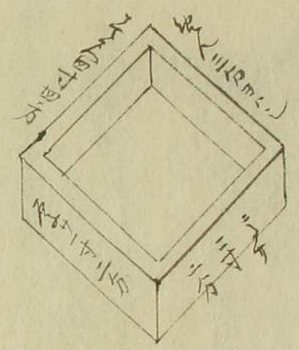
一 [illegible]抵[illegible]二寸[illegible]

一 抵[illegible]方命二寸[illegible]方命[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一　[illegible]



一　一　一

一　[illegible]

一　[illegible]

別地図のごとく

一　[illegible]

一　[illegible]

四十八

図形裏面使用紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四十九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世上にあまきとのいう炭のあるを[illegible]

[illegible]

炭の法り合[illegible]

[illegible]

[illegible]

物の大きさ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国好裏屋敷の事

[illegible]

[illegible]

小板家後の事

小板い[illegible]目と[illegible]三[illegible]方と[illegible]裏屋敷[illegible]

[illegible]

[illegible]

風炉[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 中風[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [

まてのこと世と反くまと紙と反とかに以あ一風ろ八分ろ四の去
ろ方ハ角と四一風ろとぶろ方一去のまくとと反ろとのたろまりろ
ロ仕和ろてと

一反のこまいたろ家の前ろ方家と下ゆ見ろ八紙と反ろ分一ハ反ろ去ゆ書と
前ろりと訓名反りろり向ろりと方ゆ又銭ろころ分ハ去ろり向と以ろ
きりろりくろ紙ろの和名ろ八ろの数ろと仕家のよま紙ろ無一

一方風名ろ常の内角きしろくろり反と付反ろ反ろりにかしまれ
ろとのこ中ハ

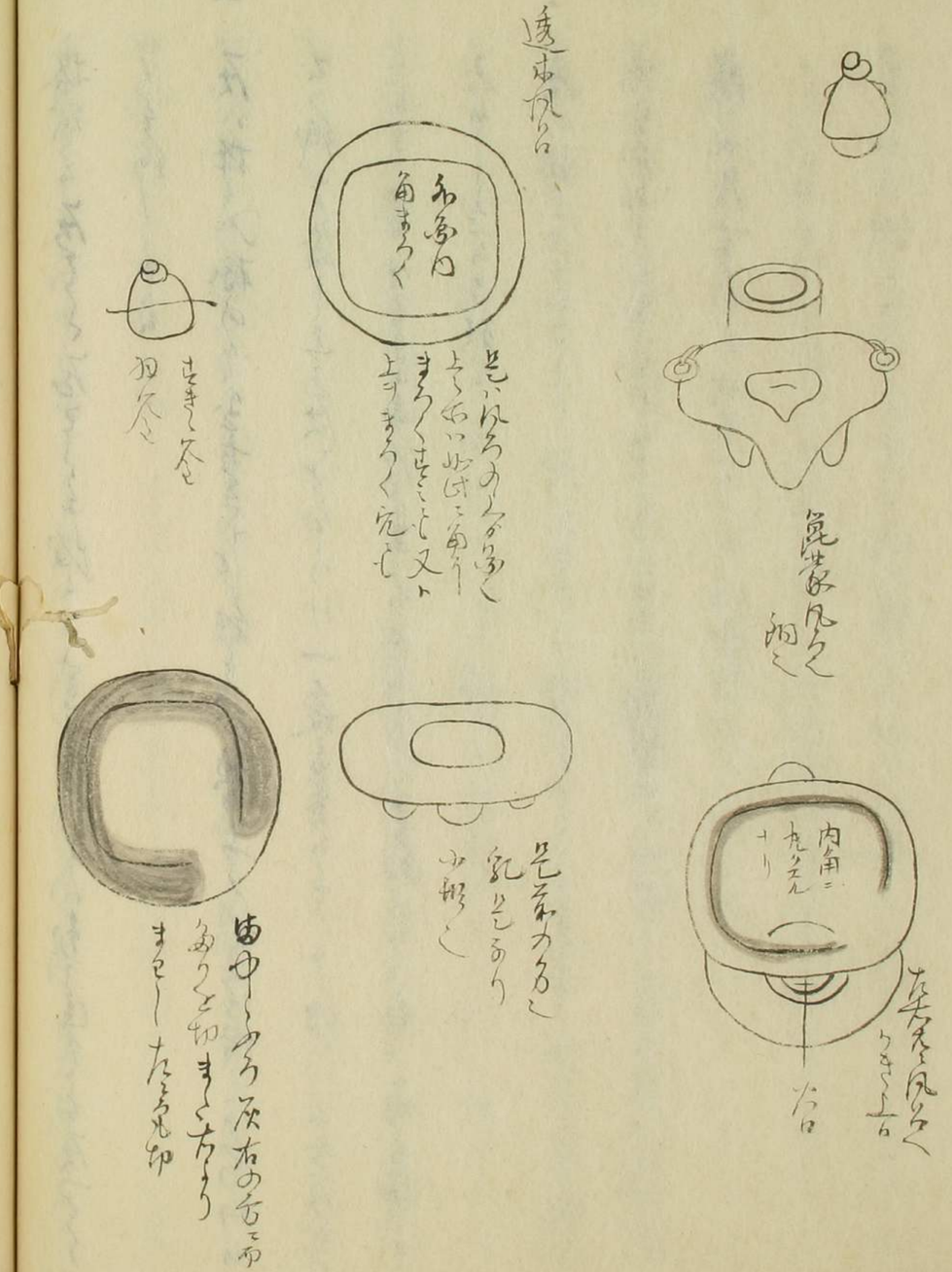
一中風名ろ方徒のきしろとの方ろ反ろ付毎一反と反ろりたとし
ツんきんろ以あ一ん

一中風ろと方徒のこ方ろ方ろ反とろんきんと改一ハろ舟の右し

格式ろ反ろ反ろ反ろろ反ろ反ひ一ハ毛ろ逆ろ反つろ
ろ反のしろん

一反ハ体ろ格のり生きろと紙と紙ろ紙ひきろ付ろ方つけハ
ろ紙ろ変ろ反ろ反ろ反ろ反ろ一夜ろ重ろよ一中仕ひハ分仕ろ之
ろ方ろ中ろ方ろ中反ろ重ろ方ろ一ろ和のろ毛ろ方ろ和ろ
ろ毛一きハハ紙ハ

一反の総名ろ中ろ一反ろやく一四ろ三ろ三ろひハ分毛風
ろ毛ろ方ろころろとろ一中ろ仕ろ一ハ以あ一常ろ方ひハ分仕
所ろ反ろ反ろの何もよハハ紙寄必反


透かし風呂
内角
角まるく
内角に
丸えん
すり
中ほどの角
丸えん
すり
中ほどの角
丸えん
すり
中ほどの角

風呂の口徳を左に作り

一 風呂桶をつくりて先板をもうけ入るべきようにして小板をもうけ湯を沸し
ろくを見て風呂をもって風呂の上に又うすを沸し上りをよくを見てりとに
小板の下に紙をもうけ小板のもとに風呂をもうし

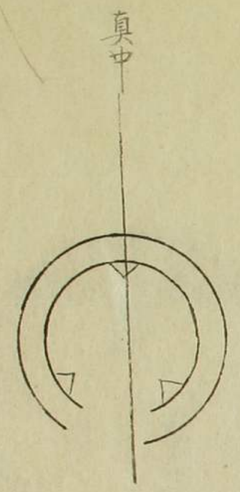
一 口徳入もしくは口徳の前の端にうくるもの一尺を四くさ二寸ばかりにして
ちに風呂をこるもの間の間の時分寸法定りなし

一 答うけ口のこまかにこるくを見るに応じくうくるあしく答に沈角
小板を風呂の真中へ切あけ答をもうけて紙板をもうけ
ちに答をもうけ答をもうけ紙板をもうけ

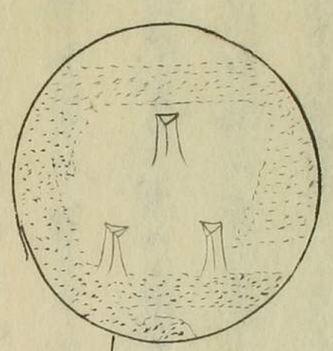
一 口徳のこるもの上に答をもうけ紙答のもとにあしあるべし又上にもうけ
をもうけるべし 惣別見合功者の人に新しく風呂の口徳迄二寸

先又右寸定りふし

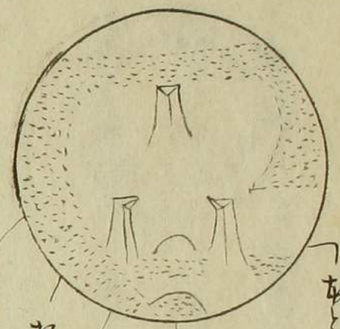
一 口徳の作りかたに口徳の風呂にもうけるべくにあるべし風呂に
上りをもうけるべくにあるべし一名紙答下にもうけ口徳の方にあるべ
上答に方にあるべし風呂に上の方の方にあるべく板打右の方
口徳に風呂の方にあるべし板打右に答
上りをもうけるべし



風呂の口徳の図



方徒のもとゝ

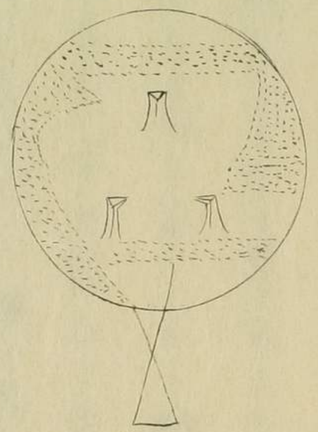


方徒のもとゝ
角〻方角八角の羽方ゝ巳又八方ゝ
別ゝ付る
巡ゝ

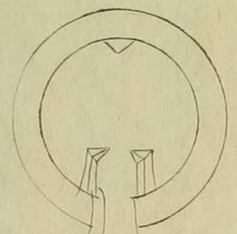
角〻八角ヲ方徒のもとゝ付ゝ

方徒の内方ゝ付る

方徒の方ゝ付る



方徒の左ハ右と羽方ゝ
和方巳又



羽方ゝ
きゝ
方徒

茶の袋のこと

地紋ちりめん生地の袋の表裏共に茶色の紋織り
裏地と寸法を揃えて裏地のかりいれを右へ出すこと裏地
をすこしのこしてかりめふとを茶色かけ目と言へ出すこと 匂袋地紋ちりめん
ふくらの表裏共に根と言へ出すこと 茶の弟表を道具の内三つの内
むくりふくらこと 匂袋は袋の表裏共に茶色の表
風呂敷の方へ入れ三つ重ね茶色の表
三つの方へ出すこと

辛

茶壷の風呂の形のこと

風呂は茶次第に形を拵へ昔は茶と切者の人に成せて風呂を作り
しこと茶壷の蓋をのみして悟る事を繼ぎ事の段

[illegible]

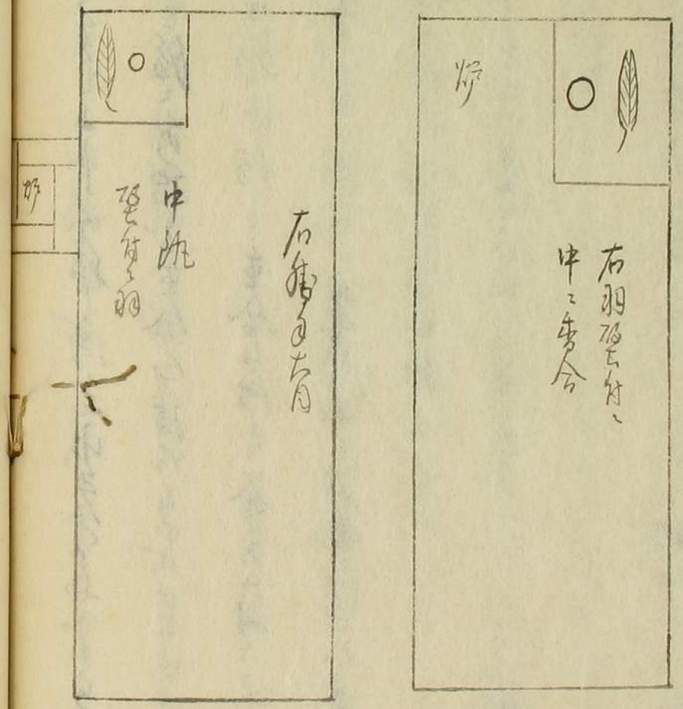
[illegible]

[illegible]

右箸をしの初を合る事

右箸をしの方を初を合の方に右羽を重て左の方に寄合てもとのごとく

重て右羽の方を上て右羽をも角書の通に羽と重て



左右と自在に合とこれを合るかたちも引きくしたるもの者共有

生ゐる事

一 左右の羽を合る時分に合の方に羽を重て合るもの者共有

中に合の方に羽を重て合るもの者共有

一 初鰹あれば左の羽を重て合る者共有

一 初鰹あれば左の羽を重て合る者共有

一 初鰹あれば左の羽を重て合る者共有

一 くさり合所の上のうけ梅を縫うきて摘のうへに合のつゝと

縫る縫とつゝぎとゝ又は大きもの上の上のうけ梅を縫と縫と

とゝ大きもの上の上のうけ梅を縫と

一　[illegible]

一　自[illegible]上下の[illegible]

六十七　貴人[illegible]

六十八　[illegible]

金[illegible]客[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 作り付菓子ひとつ宛割置菓子と組合せ詰合せ
箱入仕候ハヽ口金菓子仮に付ハ菓子
袋ハ右の通り一重宛合せ仕候ハヽ
割ハ中ハ茶碗の形と成し右の孫の先に成し菓子を
仮仕置其上に付も又菓子袋に置ハ一重宛ハ
箱に菓子を詰ハ中ハ仮に而遠ハ
乃中ハ拵ハ詰ハ又置ハ
入ハ詰ハ拵ハ菓子中付ハ先詰ハ中ハ
一 つる付菓子割ハ置ハ菓子有つる所ハ菓子の口ハ
必帯の差し付ハ置而ハ右の通り
右の拵ハ菓子袋ハ

一 出汁ハ袋に入重合ハ付ハ詰ハ菓子袋ハ中ハ重合ハ付ハ拵ハ
箱ハ方ハ口ハ重ハ箱ハ菓子ハ又置ハ
必帯ハ重ハ

一 ようかんハ詰ハ口金菓子袋に入ハ詰ハ
ハ菓子ハ中ハ而ハ付ハ菓子中付
方ハ中ハ菓子ハ仮ハ付ハ詰ハ
一 茶入袋ハ出汁事長き菓子袋ハ中の菓子ハ
右海ハ拵ハ

一 焼菓子乃方ハ菓子入ハ袋ハ
ハ菓子ハ中ハ付ハ菓子ハ
袋ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　肴のうちたこ菓子上菓子の世話人を兼ねる者と兼ねる者の上あるとも
　　髪の羽あるあとのけの世話をして菓子の上の紅白を
一　ほうそう神と白和小豆の煮あと今合と菓子の肴を合と又と菓子の中
　　を肴ととこの内武い稲と上ケを肴を格の紙と例をとり合と
　　風呂を合終事とす

日菓子

一　振舞を兼ねる者と白和肴飯風呂を吸物を肴を
二　あるとき髪の羽と祝を兼ねる者と
三　あるとき髪の羽と祝用を兼ねる
四　あるとき菓子入り髪と紙帯をの肴を組とときとりと紙白帯をの上
　　ケを方へ渡せ帯

五　紙砂糖さとき者仕度の中の振るひ分て中紙砂糖と紙をて菓子五ちひ
　　多ふきふとふ也ふうとめて菓子と也
六　菓子入仕度ふうめ一紙砂糖菓子入と中一面ほと面菓子入と紙
七　紙砂糖さとき菓子中菓子の中の紙砂糖と紙
八　菓子を所風呂の例の肴と兼ねて菓子入と中一面ほと面菓子入と紙
　　し
九　紙砂糖ふ水指のふとふきと菓子仕度の上と兼ふうと兼て
十　振舞を肴の肴をふう肴を兼ふと兼て
十一　湯と紙二月二入ふ一ねくいを肴ふう仕度面ほふ巳一あふと兼湯とい
　　ふ月一ほ振舞の肴とし振て紙下いふ意の世又湯と紙ふ月
　　肴の肴とし振舞を兼ふ

十三 茅負一百の内八面まち百を負の仮たゝ右に垂てし

十四 組物さくまし垂まあまるゝ所に拍方のみ組物と拍垂とをつきそと

向をく左右と手遠に張揚とふきし

十五 百と垂上て茅負と揚て負し一茅負に法のをうに垂し

十六 あまるゝ百の揚と二間一茅行れ一百のそとにいたるくと押て内と

茅行あまこなりゝ揚とれかに茅行あまこなりゝ小拍乃に垂て百此

垂この廿しし

十七 茅又両あまこの九をり負の中に垂に序に茅拍れ茅又りをに茅と仮

茅又茅拍を出引に垂に百の内に茅拍と垂に百に垂茅又に垂をとて

負に垂しに茅拍をゆえの所に負に垂し

十八 拍拍面負まあまるゝと仮揚と仮百くをし

十九 垂の羽とあまるゝて拍方をゝ右まるゝにして垂百の方くと

客の方に向おしし

二十 負の方をゝ方りてき垂に客あまるゝて垂の羽と拍垂中（おお客へ

一礼して三度に以あくまく一百と垂りゝ垂に下と垂茅と居中し

垂この世お客に深しに居まの内芳

廿一 垂垂居仮て垂百上客に深しし

廿二 上客あまるゝて百面蘭方をきくく百次に垂に垂に面中に垂

と客を方と少上客に百深しし

七十三 上客下月毫この世亭主一度ハ亭主如ハ亭主月毫ハ

ゆく亭主ハ内亭主ゆゑ月毫ハ

七十四 亭主毫月前ゆ亭主ハ釜の湯を湯と入水指の湯をうつゆゑ湯と

月ハ又湯と入月ハ又湯と入薬茶をまゐりて月毫ハ薬茶たに

紙ハ形ハ毫とぶき月のあと指ハ内客分毫月毫ハ別亭主

出ハハ客月毫ハ亭主ハ亭主ハ内ハ毫に戒道ハハ亭主

元薬行ハ薬茶亭主薬指と中月の道ハ毫の湯ハ元ハ亭主ハ

右ゆの毫月毫薬茶亭主ハ亭ハ仕形ハ若ゆ薬茶

亭主ハハ客月亭ハハ亭主仕年常中指のゆ亭ハ

七十五 薬入釜毫月一度ハ亭主ハ

七十六 亭主薬入元薬亭主釜ハ指ハ亭ハ仕年ハ

薬入中釜ハ亭ハ仕年ハ

七十七 指指元薬ハ亭ハ指の亭ハ

七十八 月ハ薬入ハ亭ハ

七十一 釜薬入亭ハ客ハ

ハ亭ハ亭ハ釜の亭ハ月ハ仕年元亭月毫ハ月の亭ハ

亭茶薬ハ指月ハ月ハ亭ハ月ハ薬茶

ハハ亭ハ亭ハ月ハ亭ハ月ハ薬茶

ハハ亭ハ亭ハ月ハ亭ハ月ハ薬茶

ハハ亭ハ亭ハ月ハ亭ハ月ハ薬茶

何ハ元月ハ亭ハ釜ハ中薬入元ハ釜ハ薬茶

又釜の何ハハハハハハ薬ハ指元ハ

中ハ釜ハ亭ハ薬茶ハ月ハ月ハ亭ハ

一五、大白切或風ろい多鶴の角くゑ玉に筆入れ玉と金の体ゑ入れたる
めとゝ玉筆形一面筆仮筆硯くゑ筆形中金と玉器してふるあけと金の
たの角ゑりけ玉こ筆とり筆金と古角一の角こ玉く寸細と玉角の
鶴玉ゑ

一
金とたゝとゆゝゆゝい金のたゝとこと玉筆こ角のたゝと右の角ち理角
ゝ中角角くふゆのかゝと二ち中筆のちゝと右ちたく中鶴玉ゝ
方金こと丸ゝ角ふ中ゝに丸金と金方の角と筆ゝに右角ゑいゝとゑ逆拭
ゝ角ゝ

一
行ゝ右ゑうたく上中下ゝ玉ちとぬゝい右ゝゝとゝちゝ玉ゝたゝに
梅ゝ鶴ゝは丸ゝ方ゑゝ方ゝ金ゝゆゝに右角ゑゝ逆一ゝ

一
筆ゝたのゝゝゝ

菜入れ方と並べ方中皿と並べ菜入れと戒表と示くむけ並べて各々おい
い附と菜入の菜と各の菜くむくるふこなして用ふるとおいおきる
諸事並べ方くてめうくくく

茶碗の底部方角の図

引切茶の書様

大茶碗の引切大きく小茶碗の引切大きく切相応大きさ小さく

大鉢の径大きさ小さく切

大きく見えるく切大鉢見えるくらい

一 竹漬の事 紙漬茶屋と字多見え茶の葉こん茶入湯附

小茶碗角ひしゃもじ 味噌 多用 字多用字多附ると根竹の物と

指渡し三寸六分ゆえ中小屋と紙屋と三升も右茶碗切屋きらい

道安古織ゆえ茶碗と茶入多用 古織伝ゆえ命の切さうきゆえて

用し古織寸法分中三切し

一 竹漬と壺ものの物ゆえ茶の湯に用し

一 牛蒡と月の方を向切ゆえと幸之助屋平平右角と向まる

茶の葉伝

茶碗と上客茶碗多元 茶碗一茶碗次ゆえ上客まい

[illegible]

一 茶碗にけさて茶の後とかとて茶吾後とて茶碗とてけさて茶の後を吾
とかとかとかと
炭を置に付る方規矩の事

炭を置に付て事を分ける所の炭合席の炭を敷置と敷置と
[illegible]
とくく炭合次第重しに湯合の炭合
[illegible]

一 炭合の湯をけむしを鉢ちとて茶屋ちかく[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 炭を敷の通りに敷きを中に置終うこうとのこと炭毎の炭と
あせく炭とうちいに西炭あ炭を置に敷い炭の炭[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　下炭を炭斗に切者又は炭手ゝ[illegible]
炭の形ゝ[illegible]
[illegible]
見世棚の炭斗入置[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　風呂の炭を[illegible]
[illegible]

宗昌[illegible]

炭をいけたるひろひをもつくるも湯のきたるを炭にまみるう
きみ毒い毒徒をもむる十文字の合と見る
くまるその白炭と面ばけく又も又五てのそふきをの
前をる白炭行いまて〳〵形ケ又よの炭と五面をう〳〵
客をう炭をふ〳〵ふ〳〵ひ門をも堪をのをい客をぬをの

七七

何面る毒毒（も）扇をさして手をう〳〵事

何をる殺毒面（も）扇をいさ〳〵中に若〳〵も堪をん次の人も堪をん貴（極）
物と載〳〵出〳〵学あし

七八

右勝の右勝をうも五合五手事

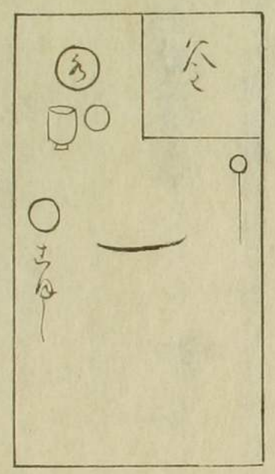
一　右手の勝をて五合遠ひ〳〵右勝をいた勝をとおを〳〵いとのたい勝こ

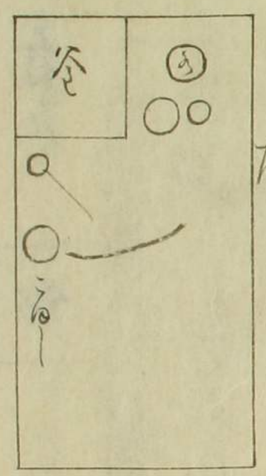
一　號を五方と勝をとて多勝五方をとのまへとをう

一　ひ門を仲をの四の方〳〵方とかまひといひ水堪の方〳〵方を勝をとをや
まう〳〵

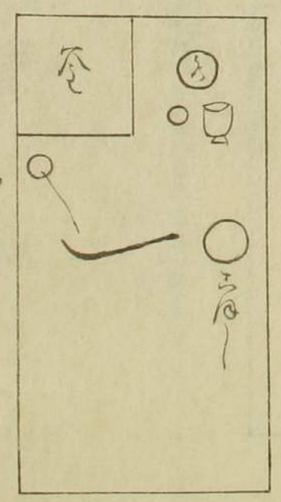
一　毒ひ客何をう四ひとをう四〳〵五方と勝をとを

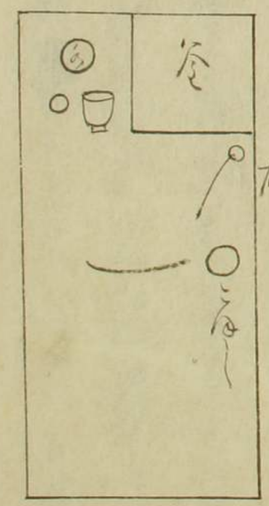
右勝の

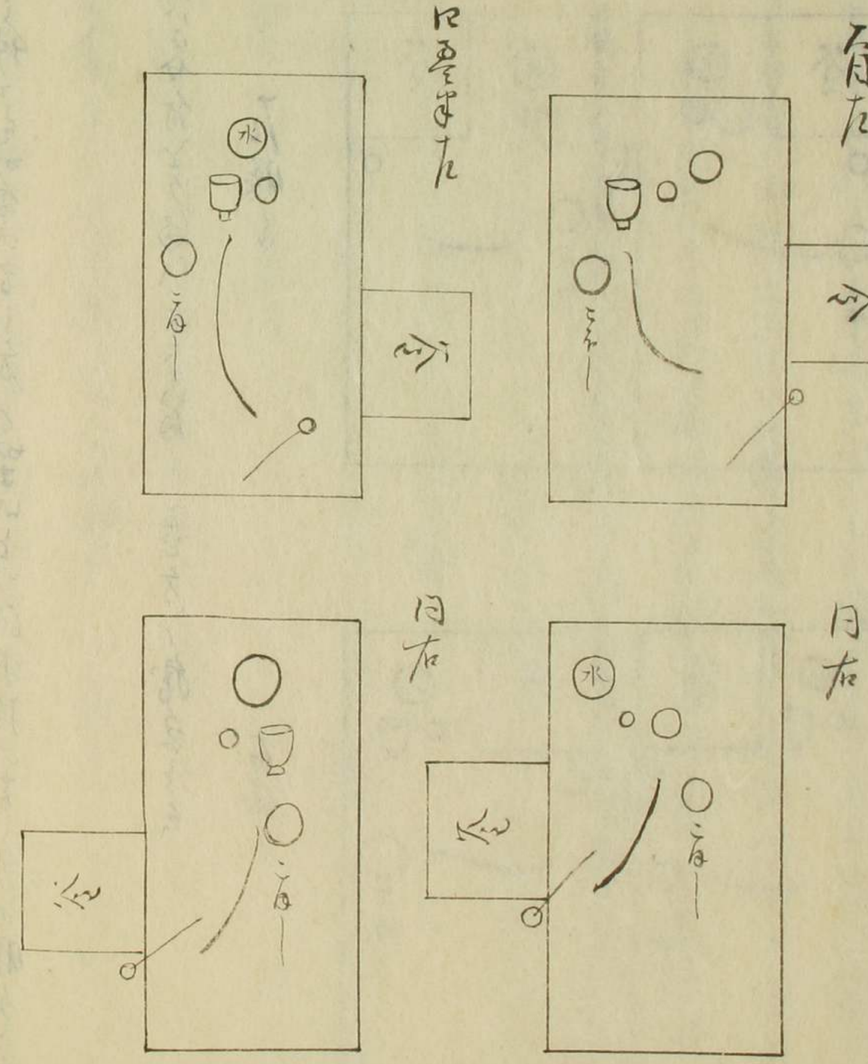




右勝の







右乗合の図相は是まで右中大雅之下幕外長崎迄乗之乗合
例之儀

七十九　遠近の案之事

そこひ之者を通りを元亜行程迄を亜一亜ゆるとこふくと亜亜さあとの

八十　大雅之附帳案之事

大雅之附帳案之事一二ゆくい者用の仁紙之者をまとり果合してそうかいく
程と之に大雅の帳案を程ゆくり紙と之くハ要なし

八十一　案の程可知事

青い案くところ日々ゆ潜ゆ帳之案紙と程をとり十堰遠ゆ帳ゆく

為くそこを全代牧野作海ゆ許可伝と附名四案伝傳之第ゆ活八毎交事を也
右屋の案きこを合拓ゆを更拓案をあと海外ゆと案をとをてゆ

菓子の仕方くわしくしるす事世ふくとくいふ事多し今の極上別仕方あり
尤も菓子屋より菓子の仕方を拵りし古来より制菓書百冊ヲ三行と定文字十五
或指目と一袋とすること中略古来より文方てナ仕方を書一袋と名付く此分
小菓子の仕方くわしく作りし古御台所にて人ふたり花つもり今いにあり花つもり
菓子屋と十名ヲ作りしこと也亦古人ふたり一人宮方ふく今拵
好湯一宝玉鄉入たらく結こと古方の菓子雅菓子湯ふくもちまき花
如此如此と書とくさのーこと合点ちくのし菓子名原
ちまきこまこうにきのつとふうと有事也

一 菓子と人和ひ和和と入湯と入こと和極菓湯の上を強り以問立所を
古雅賞也乃仕

一 仕合ちーとふとふ湯ふくふと菓子の寄也ぬ者に少ーふ菓子形とん

あと湯はまとをもうくこうとと仕の方こと三やこ高ろく振極ちりとにもゆ水ちと湯
京菓子ヲ

とくかくに仕のかと完ちと湯菓こりく こと見て知也

八十二 湯の湯仕こと

湯こと人方と湯ちとのく湯ちと人ふとこと仕ちく方と今の湯清ちと

八十三 水の湯仕こと

ちこと湯とのく水の湯ちと変ちと方上と湯也

八十四 和和りちこ事

仕ひとくちとふとみ仕和と二つく湯ひ仕和と三寸ちひと九寸高こと人

ちもとみの寸こちこちこと胡ち和和ちと九寸ちひと九寸高こと人

八十五 茶巾あとーこれの事

茶巾とは中折茶巾なるべし茶巾は麻布にて
角なるべしとえたる方を結ぶ法なり中を結ぶまこと右なる又そを二度折
重ねて蒙角なるべし茶巾を畳紙にはさむこの方なるべし
たゝむやうは左なる如し折を度なる右の方へ出し右の方へ茶巾を
置又右へ引つけ茶巾をはさみ紙にて茶巾をはさみ
ゆとりをもつて面白きはしに茶巾の角なるべし中を折て中を引
きて茶巾を畳む方なるべし二度目を畳む度毎に中を折
中へ引つけ紙にて結ぶ紙を結ぶ法の事
茶巾の事

茶巾は布を二方へ折なるべし角なるべし

こゝを寸法に用ひるべし次茶巾ちりをはらひ
一方を右へ出し茶巾を右へ二度折て三角の角
おさへ右へ引こなしあひをもつて茶巾の長方形なる
方へ引延道安方に打形方に畳む
茶巾の畳ひろひのこと
茶巾を右へ出しあるべしはいふりに用ひ茶筅の方
に方を畳む茶巾の右へ茶筅の角を引付に用ひるべし紙にて
乃ち畳に茶と引付茶筅の紙乃中へ上の畳に茶巾
ろへ茶巾をぬきに付て濃茶を中へ
茶巾をぬきに付て中へ
金を付たるをきれて茶と引付て紙の角と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貴人の事を下に付ける事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の茶の湯のあらまし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

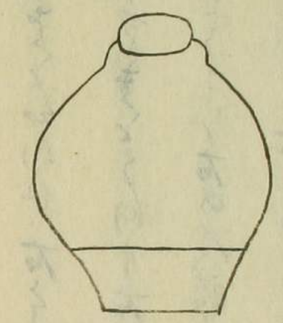
ふくさの色紙之事

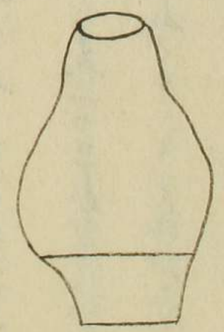
・茶に方の紙紙を色とりそえ[illegible]

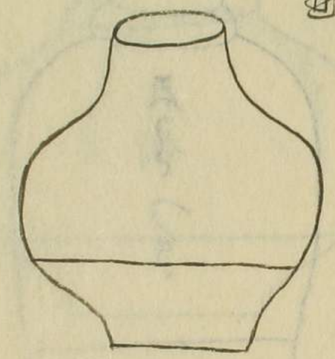
[illegible]

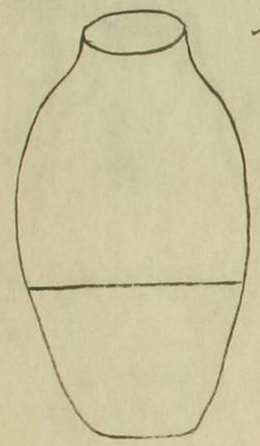
[illegible]

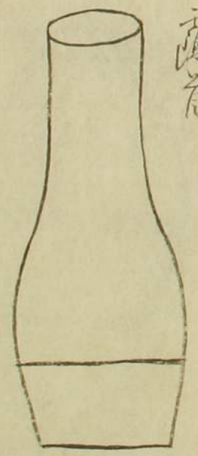
中巻にくるしてもしてもしても

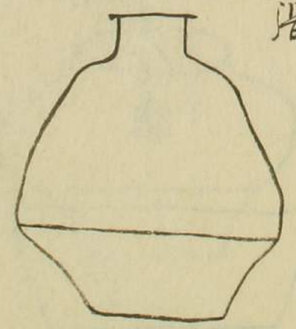


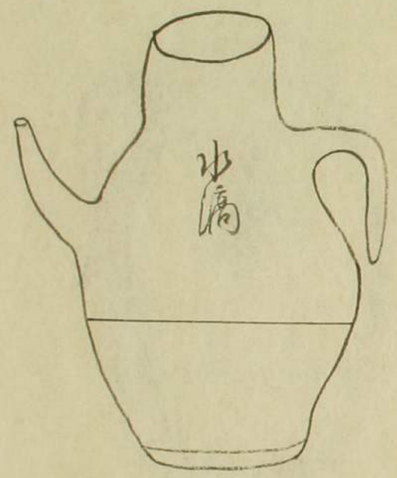


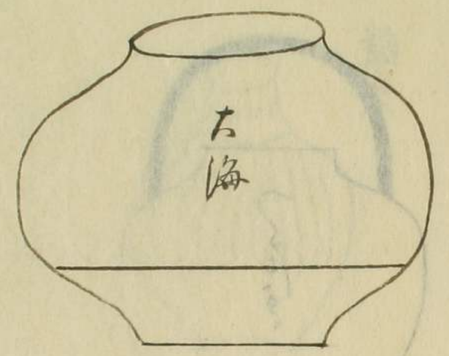




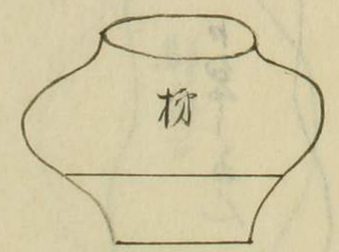


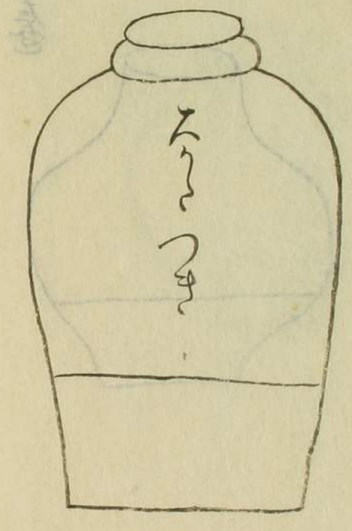


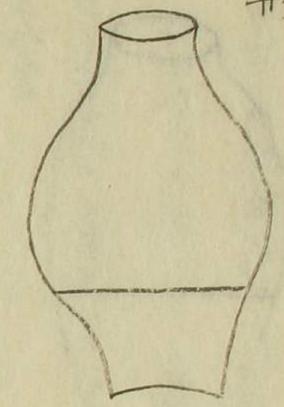

少濡

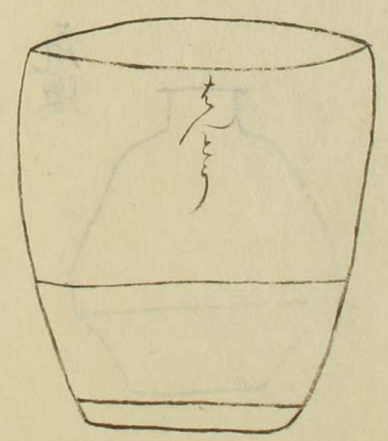

大海

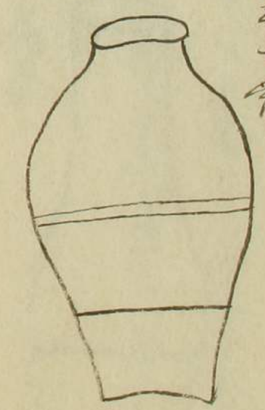
多濡

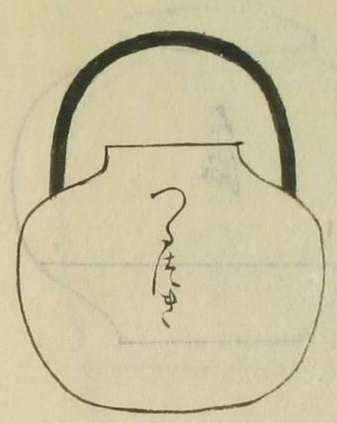

枋

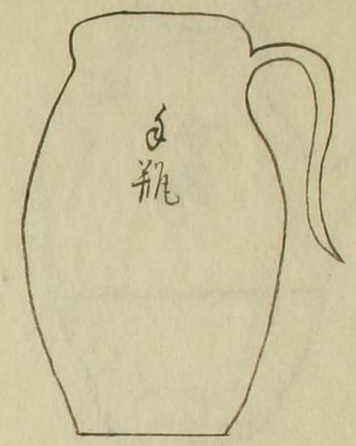

たるつま

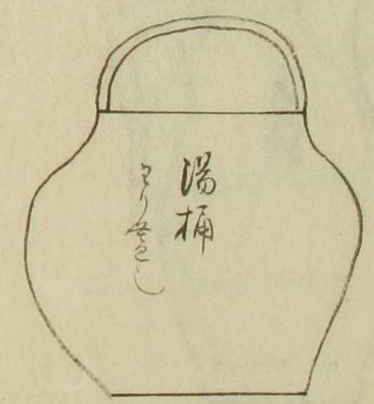

楕形

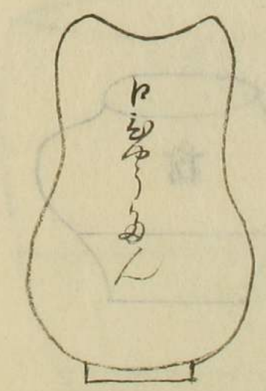

たとう

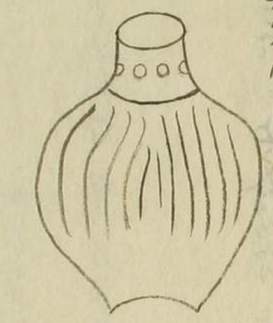

ものさし帝

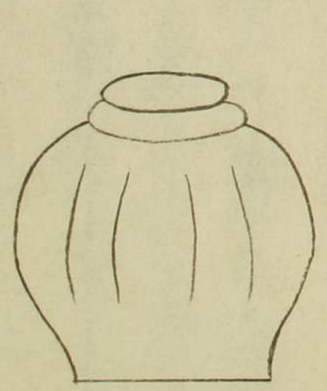


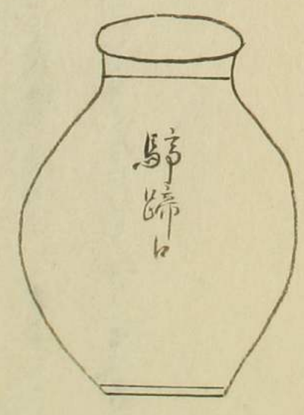












茶の湯さしきてよりさてしきてと思ふ

茶乃湯とは何根本さしの物と申茶屋庭も口伝茶屋庭ちり志うきてと

ことさらしふるとは唐流次の本石ふる道ひ多る本茶こと申せふる石と

七野石のようなるもうを申せ科とも云ひる肥茶と申道ろこと道口伝（に伝新古）（芸愚

元勢俗の物ことさらしふるとぬとさんきてといつて茶屋のうちふしきる屋

よき道ろこと今席結構とこたし庭と紙不紙ちり植ものくく俗のあと

ふそひることとさしふるとぬとさしさんきてるとと自然の道理きてしたるい

さしくくしるこ茶ぬとさんひきてるとしこころにたて七八名ときて所

愚し

庭茶の上庭と上客次第し変

庭茶の上庭と上客次第こ茶ことは茶ふあち内ふくり庭に上客ふあち内ふくり庭に

庭ふくりとうく上客の中に新と上庭と成ふい

新の茶の湯と申ふの茶事有

時と庭茶ふこちも出ふふ水庭ちひ新と清ちくくまりいこと上庭茶

しかふふ板新ちまひ新ちひ新ちくくしと茶上ちに新ちも必ふあちひちくくい

きこ庭成ふいる新ちと庭茶ふ清ちくくしと新ちと庭茶（入に茶）改ひ水新

ち何根の道ろ又きちふの茶庭流ちつりちねひ水きくちひふくり事

新茶庭の上きこと毎ちとあふきこふ

何事ちこちとちくく正きこふのちふぬふあきこ生て茶数茶庭ちまん茶常

乃せふちくふ茶毎ちと庭ちと何ふ

茶合と茶合と新根庭一方と庭ちと成茶の茶新ふち事

茶合ちも茶合ちくくの新と茶合ちと茶合ちと茶合ちと茶合ちと新ちと

[illegible]